

平成 27 年度メディア芸術連携促進事業 事業内研究

## 研究マッピング マンガ領域 実施報告書

平成 28 年 3 月

## 目次

第1章 背景と目的 .....	1
第2章 プロジェクト体制 .....	1
第3章 今年度の活動内容 .....	3
3.1 今年度の活動内容の概要 .....	3
3.1.1 国内班 .....	4
3.1.2 海外班 .....	5
第4章 次年度の課題と展望 .....	6
4.1 次年度の課題 .....	6
4.1.1 想定ユーザ層における「マッピング」のニーズの把握 .....	6
4.1.2 「マッピング」の設計 .....	6
4.1.3 日本語文献と外国語文献の位置づけ .....	6
4.2 次年度の展望 .....	7
4.2.1 マンガ／コミックス研究に関する日本語文献と外国語文献の情報収集の継続 .....	7
4.2.2 想定ユーザ層を中心としたマンガ／コミックス研究の活用可能性に関する調査 .....	8
4.2.3 情報拠点としての「マッピング」構築の構想 .....	8
第5章 文献リスト～日本編 .....	10
第6章 文献リスト～海外編 .....	16
第7章 ミーティング実施実績 .....	18

## 第1章 背景と目的

### 第1章 背景と目的

この「研究マッピング マンガ領域」プロジェクトは、文字通り、国内外で拡大するマンガ研究の状況を整理し、今後のさらなる研究の活性化と展開の促進を目的とするものである。

背景には、文化庁メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業にて、平成24年度にスタートし、平成25年度に報告書にまとめられた「マンガ研究マッピング・プロジェクト」がある。ここに集約されたのは、1990年代以降に発表された成果のうち、マンガ研究で引用・参照の頻度が高い著書と論文が中心である。主なユーザとしては、(1)学部生や大学院生など、マンガ研究に着手しようとしている初学者、(2)その研究指導にあたるなど、大学等の授業でのテキストとしてマンガ研究を参照しようと考えている教育者、(3)海外に居住する日本マンガ研究者、(4)海外のマンガ／コミックス研究の情報を求める国内研究者、などが想定されていた。

今年度のプロジェクトは、その後継事業としての役割を担いつつ、そこで見えてきた問題点の改善、および経年による関連情報の追加も企図している。とりわけマンガ研究は近年、社会連携や国際交流の文脈においてますます広がりを見せており、その方面で活用できる研究テーマや著作、論文などの情報が求められつつある。そうした背景から今回は、例えば、マンガを活用して地域活性化を図ろうとする自治体の関係者に有用な情報など、さらに広く社会展開・貢献できる研究マッピングの構築を志向している。

一方、研究マッピングの利用イメージを具現化するにあたっては、上記の目的にあわせ、内容だけでなくメディアとしての機能も見直していく必要がある。現在、発信源として「メディア芸術カレントコンテンツ」を想定しているが、画面レイアウトや情報提供の仕組みなど、オンラインサイトの特性を活かしたイメージを模索するには、単年度の作業だけでなく、中期的なビジョンが必要となる。このプロジェクトでは当初からそれをふまえつつ、研究動向およびそのニーズを調査する中で、計画的かつ臨機応変なサイトの機能を備えるべく、それぞれの研究会でのテーマを設定している。

さらに、メディア芸術における各領域との連携促進という観点から、ゲーム領域との協働を視野に入れている。それぞれに積み上げてきた研究成果や求められる場面にはもちろん差もあるが、例えばキャラクタービジネスという視点だけでも、マンガとゲームが相互参照し、深め合える研究テーマは少なくないはずである。この協働作業も今回の中期目標である。

以上の背景と目的をふまえ、以下にそれを実行するための体制や具体的な活動計画を述べる。

### 第2章 プロジェクト体制

平成25年度メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業でのマンガ分野におけるマッピング・プロジェクトを引き継ぐ形で、本事業でのマッピング・プロジェクト体制を構築した。監修担当として吉村和真、国内班・海外班の実務担当として、杉本＝パウエンス・ジェシカ、石川優、西原麻里が参加した。

## 第2章 プロジェクト体制

監 修 : 吉村和真 (京都精華大学副学長、マンガ学部教授)

実 務 班 : 杉本＝パウエンス・ジェシカ (龍谷大学国際文化学部国際文化学科講師)  
石川優 (大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター研究員)  
西原麻里 (京都精華大学マンガ学部非常勤講師)

協 力 : 日本マンガ学会

※肩書きは平成28年3月時点

### 第3章 今年度の活動内容

#### 3.1 今年度の活動内容の概要

国内班・海外班とも今年度は、平成24～25年度にかけてメディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業の一環として収集した文献情報からのアップデート（追加）と、今後の「マッピング・プロジェクト」の方向性について議論することをおもなテーマとして活動をおこなった。

平成25年度のプロジェクトでは、文献検索データベースを構築するためのモデル作成に取り組んだ。そのさい、Microsoft Excelを利用して、各文献の書誌情報や学術分野、キーワードなどを一覧化したデータを作成した。

一連の作業で明らかになった問題は、大きく分けて以下の三点がある。

一つ目は、誰が利用するための（誰にとって利用しやすい）マッピング（データベース）なのか、という点である。日本のマンガ研究の場合は学術論文等だけでなく、研究機関に属する研究者以外の評論家による重要な論考やエッセイなどが多く発表されており、それらが国内外のマンガ研究活動を支えている側面がある。そのため、「学／在野」の境界をどこで引くのか、またそもそも境界を引くべきか、という大きな問題が生じた。

二つ目は、マンガ研究は学際領域であるために研究者や評論家それぞれの問題関心や研究活動の視点が多様であり、それぞれがこのようなデータベースにもとめるニーズも異なることである。単純な情報検索のためのデータベースならば、CiNiiなどの研究に特化したデータベースや、すでに日本マンガ学会やその他情報系ウェブサイトに記載されている。それら既存のものと差別化したマッピング／データベースとはどのような状態のものがふさわしいのか、慎重に議論する必要がある。

三つ目の問題は、日本国内の文献情報と海外の文献情報とをどのようにつなげ統合するか、という点である。海外のマンガ／コミックス研究の文献は、大学など研究機関に属する研究者が各学問領域の知見に沿って研究した内容を発表したものがほとんどである。そのため、上記の状況にある日本のマンガ研究の文献と単純につなげることがむずかしい。またニーズとしても、海外の文献情報は日本のマンガ研究プロパーにとっては必要な情報だが、一般の人びとが利用するデータベースにした場合は専門性が高くなりすぎてしまい、かえって利用しづらくなるおそれがある。また、海外の研究者が日本の文献情報を参照したいという場合も、日本語表記の文献の書誌情報やキーワードをどのように外国語に対応させるかも、慎重に考えるべき課題である。

以上の課題が明らかになったことを踏まえ、今年度はいったん「マッピング・プロジェクト」としてなにをテーマにするか、という点に立ち返り、具体的な議論を来年度以降に進めるための土壌づくりを主眼として作業を進めることにした。誰にとって役に立つマッピングなのか、その成果をどこでどのように発表するか、といった点に絞り、作業を進めるために文献情報をアップデートすることを中心的な活動とした。以下に、日本語文献の情報収集班（以下「国内班」）・外国語文献の情報収集班（以下「海外班」）それぞれの活動内容をまとめておく。

## 第3章 今年度の活動内容

### 3.1.1 国内班

国内班はまず、平成 24 年度・平成 25 年度に実施した「マッピング・プロジェクト」から浮かび上がった問題点の精査から進めた（上記参照）。そのうえで、どのような形のマッピングにするかを話し合った。

まず、誰にとって役に立つマッピングにするか、という点について、以下のように議論を進めた。今年度と来年度以降の「マッピング・プロジェクト」では、（初学者／プロパー含む）マンガ研究に携わる者や一般のファンを対象にするというよりも、マンガ研究に関心のある自治体や企業、ミュージアムの学芸員といった、マンガなどポピュラー文化によって振興をおこないたい者をターゲットにするのはどうか、という案が出た。なぜならば、マンガ研究に携わる者はすでにみずからさまざまな形で情報収集をおこなっていることが考えられるし、文化庁のマンガ、アニメ、ゲーム、メディアアートに関する情報発信拠点「メディア芸術カレントコンテンツ」(<http://mediag.jp>) といった研究や評論活動を掲載する情報ポータルサイトがすでに存在しているからである。

また現在、自治体の講演会や企業のイベントなどでマンガに関わるものを取りあげる傾向は年々増加している。しかしそのさい、マンガ研究者やマンガ研究の知見を活用するためのアプローチのむずかしさ（誰を講演会の講師として呼ぶか、誰にアドバイスを依頼するかなど、また研究の知識や専門性よりも知名度が優先されることなど）が懸念事項として挙げられている。社会でマンガを活用したい（たとえば企画展や市民講座、イベント、小・中学校などでの講演会の講師、ビジネスパーソン向けの企画書や新書の執筆など）と考えている者にとって、マンガ研究の知見や研究者の情報は、知識がなければアプローチしにくいものと予想される。

そこで国内班は、産官と学とをむすびつけることを以降の「マッピング・プロジェクト」の方向性として位置づけ、産官にたいして学として貢献できるマッピング構築を目指していきたいと考えている。

しかしこの方向性は、平成 25 年度までにおこなってきたプロジェクトの方向性とは異なる。したがって、平成 25 年度までに収集した文献情報の切り口（どのような形で文献を紹介することが効果的か）を改めて熟考する必要がある。情報の具体的な精査や収集する文献の基準については、「マッピング・プロジェクト」の方向性が固まってから考えるべき点であるため、作業には時間を要する。

そこで今年度は、まず新たな文献情報の収集から始め、収集する文献の基準や収集した文献情報の精査などは来年度以降におこなうこととした。具体的な作業としては、平成 26 年から平成 27 年 9 月までの約 1 年半のあいだに発表されたマンガ研究やマンガ業界にかかわる文献や雑誌、ムック本などを幅広くピックアップした。

文献情報の収集には、石川・西原でそれぞれ情報収集をおこなったほか、日本マンガ学会の協力のもと、学会発行のニューズレター記載の新刊情報（秋田孝宏氏作成）も参照した。文献情報のリスト化には、やがてタグやキーワードなどで検索可能なデータベースを構築することを視野に入れて、無料の文献管理ツール「Mendeley」(<https://www.mendeley.com/home/f/?e=201>) を利用した。ピックアップした文献情報は、海外の文献とともに巻末に記載する。

## 第3章 今年度の活動内容

### 3.1.2 海外班

海外班は今回、主に英語、ドイツ語、フランス語の書籍について文献情報をアップデートした。この一年間で海外で発表されたコミックス・スタディーズ、マンガ研究の大きな流れとして、以下の三つが挙げられる。まず、個人が発表した論考（単著）よりも研究論文集が多いことである。それらの編集方針としては、一つのテーマ（例えば「権力」や「災害」、「人種」など）とコミックス／マンガとの関係が横断的、複数で多様な学術分野の視点から議論されており、その結果が一つの書籍にまとめられ、発表されている。執筆者の国籍も多様化する中で、マンガ研究分野のグローバル化が加速していることを実感できる。

二つ目の傾向として挙げられるのは、学術的なものと一般向け、ポピュラーな出版物とのより明確な分岐である。英語圏ではラウトレッジ（Routledge）を始め、大手の学術出版社、大学出版社がコミックス・スタディーズ、マンガ研究という分野の発展にますます貢献している。この状況から、コミックス・スタディーズとマンガ研究とが学術分野として成熟し、数十年前に存在していた研究としての周辺化から脱出したといえることが読みとれる。社会学、メディア論、芸術分野との関連が深まる中、コミックス・スタディーズ、マンガ研究そのものがすでに歴史と伝統のある分野として存在していることが、この一年間出版された書籍の状況から見受けられる。

三つ目は、ローカルとグローバルとの両方、いわゆる「グローバル」マンガ・コミックスへの焦点である。古くからあるローカルのコミックス文化を再検討する研究、そしてハイブリッド化する新しいコミックスのジャンルとの両方に、研究の焦点が当てられている。「マンガブーム」と言われる時代・海外で日本のマンガが爆発的に売れる時代にマンガを消費していた若者が、いまや若手研究者に仲間入りし、日本のマンガのローカライゼーションが親しまれている。現在は、世界各地で発展する日本のマンガとローカルコミックス文化とのハイブリッドな形として創造される新しい作品群（グローバルマンガ、OEL [original English language] マンガなどがあげられる）が、研究対象として注目を浴びるようになった。日本のマンガの要素を表現に取り入れるこれらハイブリッドマンガは、従来から伝統のあるコミックス文化が存在していたアメリカやヨーロッパに限らず、東南アジアなど、近年までマンガ研究が少なかった領域についての研究が幸いにも増えつつある。このような、ハイブリッド化による「マンガ」というメディアの多様化、および読者層の多様化（主に女性）を研究対象にする研究者の増加が目立っている。

### 第4章 次年度の課題と展望

#### 4.1 次年度の課題

第3章で述べたとおり、今年度の活動は、調査対象期間に国内外で出版されたマンガ／コミックス研究の文献情報の収集を中心とした。また、議論をとおして、教育機関、民間企業、国・地方公共団体（産官）において有効に活用される「マッピング」を目指すという本調査の方向性も確認した。

以上の今年度の活動から浮上した課題は、(1) 産官という想定ユーザ層における「マッピング」のニーズの把握、(2) 「マッピング」の設計、(3) 本調査における日本語文献と外国語文献の位置づけ、という三点に要約される。以下では、それぞれの課題について述べていく。

##### 4.1.1 想定ユーザ層における「マッピング」のニーズの把握

上述のとおり、今年度はマンガ／コミックス研究を誰に向けて「マッピング」するのかという課題に対して、産官を主要なユーザとして想定し、それらの分野で活用される「マッピング」をつくるという調査の方向性を決定した。具体的には、マンガによる地域振興に関心がある地方公共団体への情報提供、産業界へのマンガ／コミックス研究の知見の応用といったかたちで、本調査の成果が活用されることを目標とする。

しかし、今年度は誰に向けて「マッピング」をつくるのかという議論と文献情報の収集に活動の重点を置いたため、想定するユーザ層にどのような「マッピング」が望まれているのかを詳細に調査するまでには至らなかった。そのため、次年度においては、想定ユーザ層にとって、マンガ／コミックス研究の知見はそもそもどのように求められているのかというニーズを把握し、そのニーズに沿う形で文献情報を布置していくことが課題となる。

##### 4.1.2 「マッピング」の設計

こうした想定ユーザ層におけるニーズを把握するとともに、「マッピング」構築に向けた具体的な作業への着手も次年度の課題である。例えば、文献情報を整理するための細目やキーワードの設定、フォーマットの作成、公開方法（紙媒体やインターネットなど）の検討などが挙げられる。

また、それと合わせて、平成24年度・平成25年度に実施された「マッピングプロジェクト」での成果を今年度の成果と結びつけることも課題となる。平成24年度・平成25年度の調査では、学部生や大学院生、留学生といったマンガ／コミックス研究を志す者、あるいはその教育者などを主要なユーザ層として設定し、文献情報の収集・分類をおこなってきた（第1章参照）。しかし、今後は産官学の連携をより意識し、研究・教育分野だけでなく、産官をはじめとする幅広い分野で活用される「マッピング」づくりを目指す予定である。そのため、次年度では、一連の事業で蓄積された文献情報を相応しいかたちで統合する必要がある。

##### 4.1.3 日本語文献と外国語文献の位置づけ

今年度の本調査では、日本語文献と外国語文献を収集の対象とし、後者については主に英語、ドイ



## 第4章 次年度の課題と展望

ツ語、フランス語による文献を中心とした。その他の言語（例えば、韓国語や中国語など）で発表された文献に関しては、現時点では調査・収集の対象となっていない。現在、マンガ／コミックス研究はさまざまな国・地域・言語で展開されているため、調査対象とする言語圏を拡張するかどうかは、今後検討する必要があるだろう。

また、多言語によるマンガ／コミックス研究を収集するにあたっては、著作権と表現規制の問題を考慮しなければならない。複数の文化において国境を越えて研究をおこなう場合、国や地域によって著作権と表現規制に関する法律や慣習には大きな差がある。そのため、マンガ／コミックスのジャンルによっては、研究そのものが困難あるいは不可能であることも少なくない。マンガ／コミックス研究を広く「マッピング」する上では、このように国際的な状況を踏まえておく必要がある。

さらに、「マッピング」をどのような言語で展開するのかという点についても検討の余地がある。本年度は、国内班は主に日本語話者（第一言語、第二言語を問わず）に向けた「マッピング」を想定して活動をおこなったが、想定ユーザ層が日本語文献とそれ以外の言語による文献に対して、それぞれどのような情報を求めているのかは明らかでない。したがって、「マッピング」の構築にあたっては、想定ユーザ層における日本語文献と外国語文献に対するニーズの異同を把握し、場合によっては「マッピング」の多言語化（例えば、日本語文献の英語での紹介など）を視野に入れる。

### 4.2 次年度の展望

こうした課題を踏まえ、次年度の「マッピング」事業の展望について述べる。その展望とは、(1) マンガ／コミックス研究に関する日本語文献と外国語文献の情報収集の継続、(2) 想定ユーザ層を中心としたマンガ／コミックス研究の活用可能性に関する調査、(3) 情報拠点としての「マッピング」構築の構想、という三点である。以下では、これらの展望を述べる。

#### 4.2.1 マンガ／コミックス研究に関する日本語文献と外国語文献の情報収集の継続

まず、次年度の活動においても、マンガ／コミックス研究に関する文献の情報収集は引き続き実施する。これまでの調査方針と同様に、日本語、英語、ドイツ語、フランス語によるマンガ／コミックス研究（特に、本年度の調査対象期間以降、新規に出版された書籍）は情報収集の対象とする予定である。この情報収集は、本調査における基礎的な作業として位置づけられる。

また、4.1.3 で述べた課題と照らし合わせると、こうした基礎的作業に加えて、以下のものが情報収集の対象として新たに追加される可能性がある。(1) 日本語、英語、ドイツ語、フランス語以外の言語（特に、アジア圏の言語）による出版物、(2) 調査対象期間より過去の先行研究、(3) 書籍以外の研究（インターネットで公開されているものなど）、(4) 国内外を問わず、マンガ／コミックス文化に関する動向がわかるもの（エッセイや報告書など）、などである。むろん、限られた人的・時間的・予算的なリソースのなかで、すべてを網羅的に収集することは難しいだろう。したがって、本調査ではあくまでもマンガ／コミックス研究のアップデートに軸足を置きながら、次で述べるようなニーズ調査を踏まえた上で、柔軟な情報収集を目指すこととなる。

## 第4章 次年度の課題と展望

### 4.2.2 想定ユーザ層を中心としたマンガ／コミックス研究の活用可能性に関する調査

次年度は、マンガ／コミックス研究の知見が研究・教育機関、国・地方公共団体、民間企業においてどのように活用されるのか、そして活用にあたってはどのような「マッピング」が相応しいのかを調査したい。

現在、マンガに関連する文化施設の設立・運営、美術館・博物館におけるマンガ展の実施、教育現場でのマンガの利用など、さまざまなかたちでマンガ／コミックスの活用を試みる例が増加している。このような状況を考慮し、マンガ／コミックス研究の知見が産業・行政・教育などの分野で活かされ、かつ、それらと研究の分野が連携していく可能性を、関係者へのインタビュー調査などをとおして模索したい。例えば、マンガによる町おこしに関心をもつ地方公共団体、マンガを教材として用いたい教育関係者、産学連携に協力的な民間企業などとの対話から、マンガ／コミックス研究の「実用性」や「応用可能性」を見出し、研究機関だけでなく、これらの人々にとっても有用な「マッピング」の構築へとつなげたい。

このように「マッピング」の届け先であるユーザ層のニーズを調査した上で、文献情報の具体的な整理方法——例えば、キーワードごとに分類するのか、分類するとすればどのようなキーワードが望ましいのか、文献ごとに梗概をつけるのか、研究者のプロフィールは必要か、など——を考えていく。

### 4.2.3 情報拠点としての「マッピング」構築の構想

以上のとおり、次年度はマンガ／コミックス研究に関する文献情報を引き続き収集し、それらの情報の有用性を調査した上で、文献情報の適切な整理方法を検討する。これらの作業を踏まえ、具体的な「マッピング」の構築へと着手する予定である。

まず検討しなければならないのは、「マッピング」の公開方法である。基本的には、オンラインでの公開を想定している。第3章で述べたとおり、今年度は文献管理ツール Mendeley を使用して情報収集をおこなった。Mendeley は無料で利用でき、インターネット上でこれらの情報を公開・共有することも可能だが（現在はプロジェクト・メンバーのみの限定公開）、そもそも教育・研究機関や研究者の利用を念頭に置くツールであるため、一般に広く提供するのに相応しいものであるかという点には疑問が残る。したがって、さまざまな人びとが「見やすい」「使いやすい」かたちで文献情報を布置する工夫を考えていきたい。

そして、既存の媒体との差異化や連携についても検討する予定である。例えば、マンガ／コミックス研究とアニメーション研究に関する文献を網羅的にリスト化した書籍として、竹内オサム監修『マンガ・アニメ文献目録』（日外アソシエーツ、平成26年）がある。「マッピング」の構築にあたっては、このような先行の目録やデータベースとは異なる有用性についても意識する必要があるだろう。また、文化庁ではマンガをはじめとする「メディア芸術」の情報発信拠点「メディア芸術カレントコンテンツ」が運営されている。本調査による成果を効果的に発信していくために、こうした既存のサービスとの連携についても積極的に検討する。

このように「マッピング」の構想を練ることをとおして、世界各地の研究・教育・産業・行政分野に関わる人々が、マンガ／コミックス研究の全体像や新しい発展を共有できるヴァーチャル・スパー

#### 第4章 次年度の課題と展望

スの構築を将来的な目標としたい。

第5章 文献リスト～日本編

第5章 文献リスト～日本編

	著者	発行年	題名	出版社
1	青島広志	2015	少女漫画交響詩	新日本出版社
2	荒木飛呂彦	2015	荒木飛呂彦の漫画術	集英社
3	荒俣宏(編著)	2015a	日本まんが 第壹巻:「先駆者」たちの挑戦	東海大学出版部
4	荒俣宏(編著)	2015b	日本まんが 第貳巻:きらめく少女の瞳	東海大学出版部
5	荒俣宏(編著)	2015c	日本まんが 第参巻:男が燃えた!泣いた!笑った!	東海大学出版部
6	五十嵐大介	2014	総特集:五十嵐大介:世界の姿を感じるままに(KAWADE夢ムック)	河出書房新社
7	いしかわじゅん	2015	今夜、珈琲を淹れて漫画を読む:「漫画の時間」2時間目	小学館クリエイティブ
8	石毛弓, 柏木隆雄, 小林宣之	2015	日仏マンガの交流:ヒストリー・アダプテーション・クリエーション =Les échanges Culturels Entre Manga et B,e Dessinée :Histoire,Adaptation et Création 大手前大学比較文化研究叢書	思文閣出版
9	泉麻人	2014	昭和マンガ少年	復刊ドットコム
10	伊藤剛	2014	テヅカ・イズ・デッド:ひらかれたマンガ表現論へ	星海社
11	伊藤遊, 谷川竜一, 村田麻里子, 山中千恵	2014	マンガミュージアムへ行こう	岩波書店
12	稲田豊史	2014	ヤンキーマンガガイドブック:文化系のためのヤンキーマンガ入門	DU BOOKS
13	岩館真理子, 小椋冬美, 大島弓子	2014	わたしたちができるまで	復刊ドットコム
14	上松盛明, 大家重夫, 円谷英明	2014	ウルトラマンと著作権:海外利用権・円谷プロ・ソムポート・ユーエム社	青山社
15	烏兎沼佳代	2015	りぼんの付録全部カタログ:少女漫画誌60年の歴史	集英社

	著者	発行年	題名	出版社
16	大井夏代	2014	あこがれの、少女まんが家に会いに行く。	けやき出版
17	おおこしたかのぶ	2014	美少女マンガ創世記:ぼくたちの80年代	徳間書店
18	大橋博之	2014	心の流浪挿絵画家・樺島勝一	弦書房
19	大阪府立大学観光産業戦略研究所, 関西大学大阪都市遺産研究センター, 大阪府, 新なにわ塾叢書企画委員会, 松本正彦, 辰巳ヨシヒロ, 斧田小 編	2014	再び大阪がまんが大国に甦る日(新なにわ塾叢書)	ブレーンセンター
20	大城房美	2015	女性マンガ研究:欧米・日本・アジアをつなぐMANGA	青弓社
21	大塚英志	2014a	TOBIO Critiques:東アジアまんがアニメーション研究=トビオクリティックス	太田出版
22	大塚英志	2014b	メディアミックス化する日本	イースト・プレス
23	岡崎京子, 世田谷文学館, 吉本ばなな	2015	岡崎京子:戦場のガールズ・ライフ	平凡社
24	雁屋哲	2015	美味しんぼ「鼻血問題」に答える	遊幻舎
25	木村俊介, 猪飼幹太	2015	漫画編集者	フィルムアート社
26	高河ゆん	2015	高河ゆん漫画家30周年記念本:30-までだと思っていた道は、まだ先に続いている(といいな)	一迅社
27	このマンガがすごい編集部	2015	このマンガがすごい! 2015	宝島社
28	このマンガがすごい編集部	2015	大人の少女マンガ手帖	宝島社
29	コミックマーケット準備会 編	2015	コミックマーケット40周年史=40th Comic Market Chronicle	コミケット
30	斎藤環	2014	キャラクター精神分析:マンガ・文学・日本人	筑摩書房

	著者	発行年	題名	出版社
31	斎藤環	2015	猫はなぜ二次元に対抗できる唯一の三次元なのか	青土社
32	桜井哲夫	2015	廃墟の残響:戦後漫画の原像	NTT出版
33	山王丸榊	2015	ろごたいぷっ!:マンガ・アニメ・ラノベのロゴを徹底研究する本	リットーミュージック
34	島田一志,松本零士	2015	漫画家、映画を語る。:9人の鬼才が明かす創作の秘密	フィルムアート社
35	清水勲	2014	北斎漫画:日本マンガの原点	平凡社
36	鈴木雅雄,伊藤剛,野田謙介,齊藤哲也,加治屋健司,,中田健太郎	2014	マンガを「見る」という体験:フレーム、キャラクター、モダン・アート	水声社
37	Steinberg,Marc,中川譲,大塚英志	2015	なぜ日本は「メディアミックスする国」なのか	KADOKAWA
38	角南攻	2014	メタクソ編集王:「少年ジャンプ」と名づけた男	竹書房
39	第三書館編集部	2015	イスラム・ヘイトか、風刺か:Are You Charlie?:「すべては許されている」のか?	第三書館
40	高橋明彦	2015	楳図かずお論:マンガ表現と想像力の恐怖	青弓社
41	竹内オサム編著	2014	ピランジ:本《子ども》文化+風俗 34	同志社大学社会学部 竹内長武研究室
42	竹内オサム編著	2015a	ピランジ:本《子ども》文化+風俗 35	同志社大学社会学部 竹内長武研究室
43	竹内オサム編著	2015b	ピランジ:本《子ども》文化+風俗 36	同志社大学社会学部 竹内長武研究室
44	竹宮恵子,内田樹	2014	竹と樹のマンガ文化論	小学館
45	筑摩書房編集部	2014	藤子・F・不二雄:「ドラえもん」はこうして生まれた:漫画家「日本」ちくま評伝シリーズ「ポルトレ」	筑摩書房
46	ちばてつや	2014	ちばてつやが語る「ちばてつや」	集英社
47	中国引揚げ漫画家の会	2014	もう10年もすれば:消えゆく戦争の記憶-漫画家たちの証言	今人舎

	著者	発行年	題名	出版社
48	中条省平	2015	マンガの論点 :21世紀日本の深層を読む	幻冬舎
49	つげ義春,山下裕二,戌井昭人,東村アキコ	2014	つげ義春 :夢と旅の世界とんぼの本	新潮社
50	手塚治虫	2014a	手塚治虫アニメキャラクター設定画集	小学館クリエイティブ
51	手塚治虫	2014b	総特集 :手塚治虫 :地上最大の漫画家増補新版 (KAWADE夢ムック)	河出書房新社
52	東京都練馬区立美術館,朝日新聞社,梶原一騎,ちばてつや,喜多孝臣	2014	あしたのジョー、の時代	求龍堂
53	内藤泰弘 [ほか] 著,中村公彦 責任編集,コミティア実行委員会 編	2014a	コミティア30thクロニクル第1集	コミティア実行委員会; 双葉社
54	永山薫,佐藤圭亮,コミックマーケット準備会,COMITIA 実行委員会	2014a	マンガ論争=Manga Ronsoh 11	永山薫事務所 :福本義裕事務所
55	永山薫,佐藤圭亮,コミックマーケット準備会,COMITIA 実行委員会	2014b	マンガ論争=Manga Ronsoh 12	永山薫事務所 :福本義裕事務所
56	永山薫,佐藤圭亮,コミックマーケット準備会,COMITIA 実行委員会	2015	マンガ論争=Manga Ronsoh 13	永山薫事務所 :福本義裕事務所
57	中野晴行	2014	まんがのソムリエ	小学館クリエイティブ
58	名和広	2014	赤塚不二夫というメディア :破戒と諧謔のギャグゲリラ伝説「本気ふざけ」的解釈	社会評論社
59	西村マリ	2015	BLカルチャー論 :ボーイズラブがわかる本	青弓社
60	日外アソシエーツ,竹内オサム	2014	マンガ・アニメ文献目録	日外アソシエーツ
61	野上暁	2015	子ども文化の現代史 :遊び・メディア・サブカルチャーの奔流	大月書店
62	橋本治	2015	花咲く乙女たちのキンピラゴボウ 前篇/後篇	河出書房新社

	著者	発行年	題名	出版社
63	平居謙	2014	学者たちが本気で考えた『ワンピース』:「芸術観光学」の冒険	データハウス
64	福田里香,藤本由香里,やまだないと	2014	大島弓子にあこがれて:お茶をのんで、散歩をして、修羅場をこえて、猫とくらす	ブックマン社
65	槇村さとる	2015	すべては大人の女性になるために	光文社
66	松永良平	2014	音楽マンガガイドブック:音楽マンガを聴き尽くせ	DU BOOKS
67	水あさと [ほか] 著,中村公彦 責任編集,コミティア実行委員会 編	2014b	コミティア30thクロニクル第2集	コミティア実行委員会;双葉社
68	水木しげる,荒俣宏	2015	戦争と読書:水木しげる出征前手記	KADOKAWA
69	溝口彰子	2015	BL進化論:ボーイズラブが社会を動かす	太田出版
70	三原順	2016	総特集:三原順:少女マンガ界のはみだしっ子(KAWADE夢ムック)	河出書房新社
71	宮沢章夫,NHK「ニッポン戦後サブカルチャー史」制作班,日本放送協会	2014	NHKニッポン戦後サブカルチャー史	NHK出版
72	諸星大二郎	2015	諸星大二郎:『妖怪ハンター』異界への旅別冊太陽	平凡社
73	山川直人 [ほか] 著,中村公彦 責任編集,コミティア実行委員会 編	2014c	コミティア30thクロニクル第3集	コミティア実行委員会;双葉社
74	ヤマザキマリ	2015	地球で生きている:ヤマザキマリ流人生論	海竜社
75	ゆうきまさみ	2015	総特集:ゆうきまさみ:異端のまま王道を往く:デビュー35周年記念(KAWADE夢ムック)	河出書房新社
76	ゆでたまご	2014	ゆでたまごのリアル超人伝説	宝島社
77	Maslon,Laurence,Michael Kantor,越智道雄	2014	The Hero:アメリカン・コミック史	東洋書林



	著者	発行年	題名	出版社
78	McCarthy,Helen, 小巻靖子,有枝春, 大友克洋,手塚プロ ダクション	2014	手塚治虫の芸術	ゆまに書房
※以下は雑誌なので、著者名無し。				
79		2014	フリースタイルvol26	フリースタイル
80		2016	季刊エス49号 2015年1月号	飛鳥新社
81		2016	小説すばる2015年3月号	集英社
82		2014	月刊 創 2014年5・6月合併号	創出版
83		2014	情報の科学と技術 :The Journal of Information Science , Technology Association Vol64 2014No4	情報科学技術協会
84		2014	東京人 2014年7月号	都市出版
85		2016	Pen 2015年8月1日号[いま読みたい、日本 のマンガ]	CCCメディアハウス
86		2016	美術手帖 2015年02月号	美術出版社
87		2014b	ユリイカ 2015年1月臨時増刊号 総特集◎岩 明均 -『風子のいる店』『寄生獣』から『七夕 の国』、そして『ヒストリエ』へ	青土社
88		2014c	完全保存版双葉社スーパームック: 大好き だった!少女マンガ70年代篇	双葉社
89		2015	完全保存版San-Ei Mook: 野球マンガ大解剖	三栄書房
90		2015	大島弓子fanBook	青月社
91		2014	「ガロ」という時代 :創刊50周年	青林堂

## 第6章 文献リスト～海外編

	著者	発行年	題名	出版社
1	Amanou, Leila.	2016	L'adaptation Des Bandes Dessinées de Titeuf En Séries de Dessins Animés.	Presses Académiques Francophones .
2	Ayaka, Carolene, Hague, Ian.	2014	Representing Multiculturalism in Comics and Graphic Novels.	Routledge.
3	Baetens, Jan, Frey, Hugo.	2014	The Graphic Novel: An Introduction.	Cambridge University Press.
4	Berndt, Jaqueline.	2015	. Manga: Medium, Kunst Und Material (Manga: Medium, Art and Material).	Leipziger Universitätsverlag.
5	Berndt, Jaqueline, Stewart, Ron, Bauwens-Sugimoto, Jessica, Suzuki, Shige (CJ), Theisen, Nicholas, Monden, Masafumi, Kálovics, Dalma, Dahan, Léopold, Unser-Schutz, Giancarla.	2014	“Manga Studies.”	Comics Forum.
6	Brienza, Casey.	2015	Global Manga: “Japanese” Comics without Japan?	Routledge.
7	Brienza, Casey.	2016	Manga in America: Transnational Book Publishing and the Domestication of Japanese Comics .	Bloomsbury Academic.
8	Chute, Hillary L.	2016	Disaster Drawn: Visual Witness, Comics, and Documentary Form.	Belknap Press.
9	de Sutter, Laurent.	2016	Vies et Morts Des Super-Héros.	Presses Universitaires de France.
10	Eckstein, Kristin.	2016	Shojo Manga: Text-Bild-Verhältnisse Und Narrationsstrategien Im Japanischen Und Deutschen Manga Für Mädchen.	Universitätsverlag Winter GmbH Heidelberg.
11	Foss, C., Gray, J., Whalen, Z.	2016	Disability in Comic Books and Graphic Narratives.	Palgrave Macmillan.
12	Galbraith, Patrick W.	2014	The Moé Manifesto : An Insider' s Look at the Worlds of Manga, Anime, and Gaming.	Tuttle Pub.
13	Galbraith, Patrick, Kamm Thiam Huat, Kamm, Björn-Ole.	2015	Debating Otaku in Contemporary Japan: Historical Perspectives and New Horizons.	Bloomsbury Academic.

	著者	発行年	題名	出版社
14	Gallego, Julie.	2015	La Bande Dessinée Historique, Premier Cycle : L' antiquité.	Presses Universitaires de Pau.
15	Lent, John A.	2015	Asian Comics.	University Press of Mississippi .
16	Lunning, Frenchy.	2015	Mechademia 10: World Renewal.	Univ of Minnesota Press.
17	McLelland, Mark, Nagaike, Kazumi, Suganuma, Katsuhiko, Welker, James.	2015	Boys Love Manga and Beyond: History, Culture, and Community in Japan.	University Press of Mississippi.
18	Platz Cortsen, Rikke, La Cour, Erin, Magnussen, Anne.	2015	Comics and Power: Representing and Questioning Culture, Subjects and Communities	Cambridge Scholars Publishing.
19	Pohlmeyer, Markus, Neri, Neri.	2015	Cult(ur)mix: Religiöse Phänomene in Comics Und Tv-Serien.	Igel Verlag.
20	Società Editrice La Torre.	2015	Manga Academica. Rivista Di Studi Sul Fumetto E Sul Cinema Di Animazione Giapponese.	Broché.
21	Toku, Masami.	2015	International Perspectives on Shojo and Shojo Manga: The Influence of Girl Culture.	Routledge.
22	Zanettin, Federico.	2016	Comics in Translation.	Routledge.

## 第7章 ミーティング実施実績

平成 25 年度の実績を踏まえ、2 年間に蓄積された文献情報のブラッシュアップ、また将来的なウェブ公開を想定した分類項目の設定やタグ付け・キーワードに関する議論を中心に実施した。

### 第 1 回マンガ研究マッピング・プロジェクト会議

日 時：平成 27 年 9 月 8 日（火）14 時 00 分～15 時 30 分

場 所：京都精華大学

出席者：吉村、石川、西原、岡（事務局）

#### 【議 題】

- (1) 2012～2013 年度のマンガ研究マッピング・プロジェクトの課題抽出
- (2) 本年度のマンガ研究マッピング・プロジェクトの作業内容について
- (3) マンガ研究マッピング・プロジェクトの年間スケジュールについて

#### 【会議内容】

議題 (1) について：2012～2013 年度に実施されたマンガ研究マッピング・プロジェクトから見えてきた課題について、意見交換を行なった。主な課題として、第一に、従来のプロジェクトの成果物は、マンガ研究を専門としない者が参照しやすい仕上がりではない、第二に、研究者にとって有用な専門性や網羅性を満たしているともいえない、第三に、他の研究目録（例えば、竹内オサム『マンガ・アニメ文献目録』日外アソシエーツ、2014 年など）との差異化をどのように図るのか、などの点が提出された。

議題 (2) について：上記の課題を踏まえ、本年度の作業方針を決定し、かつ、次年度以降のマッピング・プロジェクトの展望について議論した。

議題 (3) について：上記を遂行するための具体的な作業内容を確認し、担当者を決定するとともに、年間スケジュールを調整した。

議題 (4) について：事業予算、事務的な作業（議事録作成など）の確認、その他の関連事業に関する情報共有がなされた。

#### 【決定事項】

議題 (1) について：本事業の成果物の想定ユーザーを「マンガ（研究）の利活用に関心をもつ者」とし、マンガによる地域振興を検討している地方自治体、マンガを授業教材として活用したい教育関係者、キャラクタービジネスに関心をもつ企業などが利用しやすいマッピングの作成を目標とする。

議題 (2) について：この目標を念頭に、本年度は以下の 2 点を柱として事業を実施する。

第一に、マンガ研究の文献情報の更新作業を行なう。本年度は、日本語の文献に関しては、2014年4月～2015年9月までに刊行されたマンガ研究関連図書の書誌情報を収集する。外国語の文献については、日本語文献担当者とも調整しながら情報を収集する。

第二に、上記の基礎作業をもとに、本事業の想定ユーザーにとって利用しやすいマップのイメージ図を検討する。具体的なマッピングの作成は次年度以降とし、本年度は特定のテーマやキーワードに従って文献情報を括り直す作業などを試験的に行ない、どのようなマッピングが有効であるかを検討する。次回の会議にて、マッピングのイメージやアイデアを各自持ち寄り、マッピングの理想的なフォーマットについて議論する。

吉村は本事業全体を統括し、日本語文献の情報更新は西原・石川、外国語文献は杉本＝バウエンスが担当し、マッピングの方向性の検討は全員で行なう。

## 第2回マンガ研究マッピング・プロジェクト会議

日 時：平成27年11月27日（金）18時00分～20時00分

場 所：京都精華大学

出席者：吉村、杉本＝バウエンス、石川、西原、藤本、竹内（事務局）

### 【議 題】

- ①収集した文献情報についての点検・精査
- ②オンライン公開時におけるWeb構築のイメージについての意見交換
- ③報告書のフォーマットについての確認と役割分担の決定
- ④合同シンポジウムの内容についての確認

### 【会議内容】

- ①日本語文献については、日本マンガ学会ニューズレターを参照し収集した、2014年1月から2015年9月までに出版された学術書や一般書、雑誌の書誌情報を、Mendeleyに入力した。文献リストとしてMendeleyが利用可能かどうかを話し合った。また、「研究マッピング」の位置づけや目的について再確認した。
- ②オンライン上に構築するページのイメージについての検討、掲載するコンテンツ（書誌情報・コンベションや調査の実施報告書情報・イベント情報など）についての意見交換をおこなった。
- ③本年度プロジェクトの報告書のフォーマットと執筆の役割分担の割り振りをおこなった。
- ④3月に開催するゲーム分野との合同シンポジウムでの報告内容について確認した。

### 【決定事項】

- ①Mendeley を利用し、海外の文献も含めた文献の書誌情報をアップロードする。学術書や

一般書、論文、雑誌の特集のほか、調査報告書や各イベント等の報告書も収集する。

②必ずしもアカデミックな研究だけでなく、各地方自治体や企業などに活用されることを視野に入れ、文献情報の収集と精査とをおこなう。また次年度以降、データベースの運用や情報のアップデートなどが可能なオンライン上のページ構築を念頭に置き、作業を進める。

③本プロジェクトの実施報告書のフォーマットは、平成 25 年度マッピングプロジェクトに準じる（ただし、英訳はしない）。第一稿の執筆〆切は 2 月 5 日とする。

本報告書は、文化庁の委託業務として、メディア芸術コンソーシアムJVが実施した平成27年度「メディア芸術連携促進事業 連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。